



歯科医・彌勒寺寛之の
後悔しない
歯科治療の受け方

「このむし歯は治療しなくても大丈夫です」と言われたことはありませんか？

「せっかく来たのにむし歯の治療をしないなんて」「むし歯を治療しないで大丈夫なの？」と思われた方もいるかと思います。

つい最近までの歯科治療は、どんなに小さなむし歯でも削って治すのが当たり前でした。

ところが、削ってつめた金属やプラスチックのつめ物はその後どうなったのでしょうか？

私自身は8歳で奥歯に銀歯を入れましたが、12年後にむし歯になって取れました。

歯科大学の学生でしたので、高名な先生に治療をお願いして、今度は銀歯よりもむし歯になりにくいといわれている金歯を入れてもらいましたが、これもまた8年後に取れました。

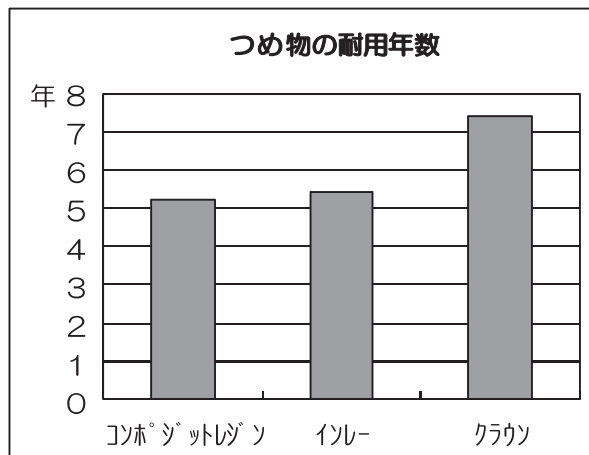
私に限ったことではなく、むし歯になったことのある方ならば、ほとんどの方がこういったことを経験していると思います。

つめ物の耐用年数は、プラスチックのつめ物（コンポジットレジン）と部分的な金属のつめ物（インレー）は約5年、歯を金属で覆いかぶせたもの（クラウン）は約7年といわれ、いずれは寿命がきます。

治療をしてしまった歯は、何も治療していない歯に比べるとむし歯になりやすいのです。

一度でも治療をしてしまうと、生涯にわたって「歯を削る→治す→歯を削る→治す」というサイクルに入っていきます。治療のたびに歯はなくなっていき、やがて抜歯に至ります。

第25回
むし歯があるのに治療を
しないのはなぜでしょう？
～むし歯治療の新しい考え方①～



資料：口腔衛生学会誌

歯を残すのにはどうすればよいか。

それは予防処置を行いむし歯にしないことです。

歯みがきをしっかりおこない、食生活に注意して、日常の歯みがきでは取りきれなかった汚れや歯石を歯科医院で3～6ヶ月毎に取ってもらうのです。

日本では痛くなってから歯科医院に行くのが普通ですが、むし歯の少ない国では、国民の大半がむし歯にならないために、自宅だけでなく歯科医院でも予防処置をおこなっています。

定期検診をおこない、定期的に歯科医院で予防処置をおこなうと確実に歯の寿命は伸びるのです。

不幸にしてむし歯になってしまった場合はどうすればよいのでしょうか。

(次回に続く)



～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之 (みろくじ ひろゆき) 1979年東京生まれ
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会
日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。
お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

(この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。)

